

第4章 國際招致活動

第4章 国際招致活動

第1節 招致プロモーション全般について

東京の招致関係者は、世界各地で開催される国際スポーツイベントへ精力的に参加し、計画の優位性や都市の魅力を IOC 委員はじめオリンピック関係者に訴えた。プロモーション活動は、国内 IOC 委員及び招致委員会幹部が中心になって実施し、これを招致委員会の国際部門でサポートする体制を取った。

また、招致委員会に、国際招致活動を計画的・効率的に進めるため、その戦略や計画の作成、体制を検討する国際招致戦略会議を設けた。

活動にあたっては、招致における知見と経験を有し、IOC 委員とも人脈のある海外コンサルタントを活用した。海外コンサルタントは、担当の IOC 委員との日常の会話の中から、時々の情勢と、東京に対する意見を収集し、東京のプロモーション戦略構築やコミュニケーション活動に役立てていった。

2016年大会招致においては、立候補都市選定後に解禁されていた国際プロモーションは、2020年大会招致においては、立候補ファイル提出後の平成 25（2013）年 1月 7 日以降に解禁と変わった。例外として、ロンドンオリンピック期間中には、各立候補都市に NOC ハウス内の国際プロモーションが認められ、東京もジャパンハウス内でズーミングを活用した東京の開催計画の PR 等を行なっている。

国際プロモーションが解禁されるまでの間は、各種国際会議やスポーツ大会に積極的に参加して IOC 委員等からの情報収集を精力的に実施した。こうした情報は、国際招致戦略会議で分析・検討され、戦略づくり等に役立てた。

東京は、国際プロモーションのキックオフとして、立候補ファイル提出の記者会見を 1月 10 日にロンドンで行い、これ以降、IOC 委員への働きかけを本格化させていく。国際スポーツ大会や関係会議の日程に応じて、招致委員会幹部等を海外に派遣し、継続的な IOC 委員との面会を心がけた。

IOC が立候補都市に認めた国際プレゼンテーションの機会としては、スポーツアコード会議、ANOC 総会、テクニカル・ブリーフィング、IOC 総会の計 4 回がある。東京は、4回のプレゼンテーション全体を見据えた戦略を構築し、最初のプレゼンテーションでは優れた開催計画をテクニカルの面からしっかりと訴え、徐々に東京のオリンピック・ムーブメントやスポーツへの信念、招致にかける情熱を前面に押し出していく戦略とした。

IOC が立候補都市に認めたブース展開としては、上述のスポーツアコード会議やテクニカル・ブリーフィングのほか、第 15 回世界水泳選手権大会があり、東京も積極的な PR 活動を行った。

こうした機会以外にも、下記一覧に記載のとおり、海外のスポーツ関係国際会議や国際スポーツ大会の機会を捉えて、東京のプロモーションを行い、関係者が一丸となった活動を行った。

東京が参加した海外のスポーツ関係国際会議や国際スポーツ大会一覧

件名	開催年月	場所
プレゼンテーションを行った会議・競技大会		
スポーツアコード会議	2013年5月	ドイツ サンクトヘーネルブルク
ANOC 総会	2013年6月	スイス ローザンヌ
テクニカル・ブリーフィング	2013年7月	スイス ローザンヌ
IOC 総会	2013年9月	アルゼンチン ブエノスアイレス
ブース展開を行った会議・競技大会		
スポーツアコード会議	2013年5月	ドイツ サンクトヘーネルブルク
テクニカル・ブリーフィング	2013年7月	スイス ローザンヌ
第15回世界水泳選手権大会	2013年7~8月	スペイン バルセロナ
その他の会議・競技大会		
ロンドンパラリンピック	2012年8月	英国 ロンドン
ウェイクボードワールドカップ in お台場大会	2012年8月	日本 東京
FIFA U-20 女子ワールドカップ	2012年8月	日本 東京・埼玉等
台湾オリンピック委員会創立90周年記念パーティ	2012年9月	台湾 台北
FIBA アジアカップ 2012	2012年9月	日本 東京
アーチェリー世界選手権	2012年9月	日本 東京
国際アイスホッケー連盟準年次・四年次総会	2012年9月	日本 東京
世界トライアスロンシリーズ横浜大会	2012年9月	日本 横浜
オリンピック開催都市連合サミット	2012年10月	スイス ローザンヌ
ソチ調整委員会	2012年10月	スイス ローザンヌ
IOC イントロダクションミーティング	2012年10月	スイス ローザンヌ
第2回国際水泳連盟会議	2012年10月	ロシア モスクワ
ピースアンドスポーツ国際フォーラム 2012	2012年10月	ロシア ソチ
世界ボートコーチ会議 2012	2012年11月	アイルランド リムリック
第31回アジアオリンピック評議会総会	2012年11月	中国 マカオ
第57回ANOC理事会	2012年11月	中国 マカオ
国際競技連盟フォーラム	2012年11月	スイス ローザンヌ
第8回スポーツ、教育、文化に関するIOC国際会議	2012年11月	オランダ アムステルダム
パンアメリカンスポーツ機構執行委員会	2012年11月	米国 マイアミ
ANOC理事会	2012年12月	スイス ローザンヌ
ANOC・IOC合同理事会	2012年12月	スイス ローザンヌ
FIFA クラブワールドカップ	2012年12月	
第41回ヨーロッパオリンピック委員会総会	2012年12月	イタリア ローマ

スペインオリンピック委員会 100周年祝賀会	2012年12月	スペイン マドリード
オーストラリアユースオリンピックフェスティバル	2013年1月	オーストラリア シドニー
パンアメリカンスポーツ機構臨時総会	2013年2月	ジャマイカ キングストン
セルゲイ・ブブカ 棒高跳びスター大会	2013年2月	ウクライナ
東京マラソン 2013	2013年2月	日本 東京
第9回ソチ調整委員会	2013年3月	ロシア ソチ
世界フィギュアスケート国別対抗戦	2013年4月	日本 東京
第17回国際野球連盟会議	2013年4月	日本 東京
インチョン調整委員会	2013年4月	韓国 インチョン
オセアニアオリンピック委員会総会	2013年4月	フィジー ナンディ
第15回スポーツフォーオール国際会議	2013年4月	ペルー リマ
アイスホッケー世界選手権大会	2013年5月	スウェーデン ストックホルム フィンランド ヘルシンキ
アフリカ国際スポーツ会議	2013年5月	セネガル ダカール
国際陸上競技連盟ビジネスパートナーミーティング	2013年5月	
世界トライアスロンシリーズ横浜大会	2013年5月	日本 横浜
平和と発展のためのスポーツ国際フォーラム	2013年6月	米国 ニューヨーク
スポーツ仲裁シンポジウム	2013年6月	日本 東京
ピョンチャン調整委員会	2013年6月	韓国 ピョンチャン
国際スポーツ関係フォーラム	2013年6月	韓国 ソウル
IOCアスリートフォーラム	2013年6月	シンガポール
第4回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ	2013年6月	韓国 インチョン
アフリカ国内オリンピック委員会総会	2013年7月	コートジボワール アビジャン
世界ユース陸上競技選手権大会	2013年7月	ウクライナ ドネツィク
IPC陸上競技世界選手権大会	2013年7月	フランス リヨン
ワールドゲームズ 2013	2013年7月	コロンビア カリ
世界陸上選手権大会	2013年8月	ロシア モスクワ
第2回アジアユースゲームズ	2013年8月	中国 南京
世界ボート選手権大会	2013年8月	韓国 チュンジュ
世界柔道選手権大会	2013年8月	ブラジル リオデジネイロ

第2節 スポーツ・アコード会議*

1 イベント概要

期 間：平成 25（2013）年 5月 27 日から 31 日まで
場 所：ロシア連邦 サンクトペテルブルク市
レンエキス포エキシビションセンター

2 招致都市の活動

- プレゼンテーション
- ブース展開
- 記者会見
- 招致懇談会

3 プレゼンテーションの主な内容

登壇者：竹田招致委員会理事長、猪瀬都知事、水野招致委員会専務理事、橋本招致委員会理事、荒木田招致委員会理事、太田雄貴選手

(1) 竹田招致委員会理事長（英語）

招致活動もあと 100 日となり、イスタンブールとマドリードのヨーロッパの都市とは、厳しい競争になるが、私たちはアジアの希望を伝えしていくことを誇りに思っている。アジアは、10 億人以上の若者が住む最も若い大陸で、また、強い先進経済と急速に成長する市場の双方から恩恵を受けている大陸でもある。

私たちのビジョンは、我々固有の強みをオリンピック・ムーブメントと結びつけ、スポーツにとってチャレンジングで急速に変化する時代において次の世代にオリンピックの価値を広められるような大会を開催することである。

(2) 猪瀬都知事（英語）

私たちは、東京が、世界で最も安全な都市であることを誇りに思っている。男性も女性も、グループでも一人でも、昼夜を問わず誰もが安心して街を歩くことができる。

東京が持つ強い財政力が、2020 年の大会を成功に導く強い支えとなることも非常に誇りに感じている。東京は世界最大の経済規模を有する都市で、一つの国であるならば、その経済規模は世界でトップ 10 を伺う位置にいる。この強い財政力によって、45 億ドルの大会開催準備基金の積立を可能にした。この基金は銀行に預金され、新設の恒久施設や

* スポーツ・アコード会議：国際スポーツ組織の理事会・総会や IOC 理事会と同じ会場で行うスポーツの総合的国際会議である。会期中には、各団体の理事会、総会、セッション、セミナー等が行なわれる。

インフラ整備に必要な資金は全額準備されている。

世界トップクラスの優れた輸送システムは大会計画を支えるもので、全てのアスリートや大会関係者は、常に、時間通りに目的地へ到着することができる。

東京は、アスリートや国際競技団体、そして私たちに信頼を寄せてくられる方々のために卓越、友情、尊敬の精神をもって大会を開催する。

(3) 水野招致委員会専務理事（英語）

東京、そして日本全体が、祝典と革新に満ちた大会を開催しようとしており、我々の先駆的な大会計画は大都市の中心でいかに大会を開催するかという一つのモデルを提示している。

この大会計画は、2016年の計画を出発点としており、IOC、アスリート、国際競技団体の方々からの助言を基に作成している。その結果、良い部分は維持し、できる部分は更に改善した。

例えば、選手村は、地理的にも精神的にも大会の中心となるもので、今回の計画ではより良い立地で、更に広くなっている。また、専用のオリンピックスタジアムは世界的なスポーツの新ランドマークとなる。また、すべての人と同様にアスリートも楽しむことができる壯観な開会式も計画している。IOCと協力し、アスリートも開会式において着席できるような最善の方法を探っていく。さらに、市民の強い支持があり、550万個の招致のピンバッジが着用されている。

大会は都市と完全に調和し、文化と生活とスポーツがユニークな形で一体化される。ファントレイン、ライブサイト、チケット不要のイベントが競技会場や共有スペースとリンクし、特別な雰囲気が生み出され、大会はオリンピックの価値を、更に強めることになる。

(4) 荒木田スポーツディレクター（英語）

大会は、都市のまさに中心、ウォーターフロントの中心で開催することになる。選手村もここに設置され、オリンピックの競技会場のうち85%また、パラリンピックの競技会場のうち95%が選手村から半径8km圏内に設置される。

競技会場は3つのタイプに分類される。第一に、1964年東京オリンピックの際に建設された次の世代へとレガシーを受け継いでいくための歴史ある競技会場。第二に、都市生活の中心に提供される新たな恒久施設。第三に、アスリートにとっても報道にとっても素晴らしいロケーションにある仮設の競技会場。競技会場間の移動時間も非常に短時間でストレスを感じることはなく、10人中ほぼ9人の選手が、選手村から20分で競技場に到着することができる。

宿泊施設は競技会場や練習会場に近接しており、最小限の移動時間と

非常に効率のよいプランで国際競技団体は素晴らしい大会を経験することができるだろう。私たちは、全てのスポーツが日本で、アジアでそして世界全体で発展するという目標を共有していて、信頼のおけるパートナーとなるだろう。

もちろん、計画だけであれば比較的容易だが、私たちはこれまでにも世界大会や国際競技団体が関わる多くの大会を開催してきた時と同様、困難にも取り組む決意を持っている。また今後においてもオリンピックレガシー委員会を通して、2020年そしてその後も、スポーツ、社会におけるレガシーを確実なものとしていく。

(5) 橋本 2020年オリンピック・パラリンピック 日本招致議員連盟会長代行／招致委員会理事（英語）

招致に向けて政府の全面的な支援と政党を超えた支援があることを明確にしたい。

選手として7回のオリンピックを経験した。国会の一員となって気づいたことは、多くの人々が大会への情熱を共有しているということである。

スポーツ基本法は、スポーツ振興のため政党の垣根を越えた同じ目標を持つ個々人の努力が実り成立した。その中には、安倍晋三首相も含まれている。

政府のサポートの強さが明らかに示されているのが、新たなオリンピックスタジアムである。政府の出資により、2020年大会の選手や、その後の様々なスポーツ大会やイベントに素晴らしいステージを提供する。そのうちオリンピック博物館は、次世代にインスピレーションを与える、日本そして世界のスポーツに貢献するものである。

(6) 太田選手／招致アンバサダー／オリンピアン（英語）

2012年のロンドンオリンピックは素晴らしい大会だった。とくに私たち日本人にとって、過去最高のメダル数を獲得できた大会であった。

日本チームの活躍により、人生で最も素晴らしい経験をすることができた。それは、平日にも関わらず、東京の通りを50万人の人々が埋め尽くし選手たちを歓迎してくれたことだった。

2020年に起こるであろう情熱を想像してほしい。どの競技会場も色鮮やかで歓声にあふれ、尊敬の念に満ちている。日本のファンは情熱的であり、またフェアプレイの精神を尊ぶ。また、スポーツとスポーツが持つ価値についても深く認識している。国旗やユニフォームに関わりなく、選手とその競技に声援を送るだろう。

2020年、東京での大会で各スポーツはさらに輝きを増し、会場は満席となり、素晴らしい国際的プロモーションの機会となることを約束す

る。

東京は都市のイメージそのものの大会を開催することになるだろう。ダイナミックでありつつ安全で、興奮に満ちていながら信頼がおけて、世界各国の観客やテレビ視聴者にも同様にインスピレーションを与えるものである。

(7) 竹田招致委員会理事長（英語）

過去2年間、日本では、アスリートやスポーツが社会においていかに重要な役割を果たしているか再認識した。私たちは、アスリートを再び舞台の中心に導きたい。

2012年のロンドン大会のセブ・コー委員長は、どの立候補都市も2つの単純な質問に答えなくてはならないと述べた。それは、「なぜ大会を開催するべきなのか」と「どのように大会を開催するか」である。私たちの'Why' =私たちのビジョンは明確である。次の世代へオリンピックの価値を広める最高の大会を開催し、Delivery, Celebration, Innovationという3つの強みによりオリンピックファミリー全体に貢献することを確実にする。

Delivery

非常に高いレベルの質とサービスの約束された、安心・安全・確実で世界最高の大会。

Celebration

都市の中心で行われる、これまでにない祝典。

Innovation

先進都市の想像力・創造力で、スポーツ界とオリンピックにもたらす革新。

私たちの'How'、どのように大会を開催するか、は非常に明確で重要なポイントである。'How'と'Why'を分けて考えることはできない。

現代のような不確実な時代にあっても、私たちは確実性を提供できるという自信がある。

東洋と西洋という世界の2つの文化を橋渡しし、かつ、結びつけ、五大陸全てとつながっている都市で2020年東京オリンピックが開催されれば、オリンピック価値を世界に広められる大会となるであろう。スポーツにとってチャレンジングで急速に変化する時代に直面している次世代に発信し、オリンピックとパラリンピックムーブメント、世界のスポーツファミリー、そしてスポーツの持続的でグローバルな力を信じる全ての人々に貢献できる。

4 プレゼンテーションの成果

- 東京の優れた大会開催計画とともに、東京の招致にかける情熱を強く訴えることができた。
- 新たに作成したキービジュアルをプレゼンテーションのスライドやブースで展開し、新鮮な印象を与えた。
- プrezentation、ブースともに若々しく元気で楽しい印象を与え、スポーツ関係者が多く集うスポーツアコードという場面にふさわしく、メディアでも好印象の記事が目立った。
- ANOC、テクニカルブリーフィング、IOC 総会へと続く国際プレゼンテーションの最初として、東京に流れを引き寄せることができた。
- 会場内外で IF チャーターを配布
(IF チャーター:東京 2020 による IF 向けのサービスをまとめたもの)



5 ブース展開概要

- 期 間：平成 25（2013）年 5 月 28 日から 30 日まで
場 所：ロシア連邦 サンクトペテルブルク市
来場者数：2,818 名（3 日間合計）
展 示 物：開催計画 PR、ズーミング（映像）※による競技会場紹介、招致映像放映、漫画カメラ、立候補ファイル（英・仏語）など
配 布 物：Why and How パンフ（英・仏・露語）、Discover Tomorrow パンフ（英・仏語）、立候補ファイル概

※ ズーミング：8km 圏内の都市空間と各競技会場を 3D で表現する装置。東京の中心部にコンパクトに会場を配置した大会計画を、視覚的にアピール。選択した会場をズームアップしたり、自由に回転させたりできる。

※ 立候補ファイル概要版：スポーツアコードを機に新しく作成

要版※（英・仏語）、THE FUTURE IN TOKYO（英語）、TOKYO COLORS（英語）、東京都スポーツ推進計画概要版（英語）、2020年の東京（英語）、フリクションペン、エンブレムステッカー、ピンバッチ、エコバック、ポストカード、日本酒試飲、煎餅など



ブースの様子

6 ブース展開の成果

- 東京の大会開催計画、特に競技計画や会場計画等をきちんと伝えることができた。
- 色彩鮮やかな壁面、エコバックデザイン、漫画カメラなどは、東京のエキサイティングな側面を強調できた。
- 3日間で2,818人が来場し、ブースの賑わいは群を抜いていた。
- IOC委員は、22名来場し、東京の大会開催計画に耳を傾けるとともに、漫画カメラなどを楽しんでいた。



漫画カメラを持つ猪瀬都知事

7 記者会見

- 日 時：平成25（2013）年5月30日 17:15～17:35
場 所：ロシア連邦 サンクトペテルブルク市
レンエキスポエキシビションセンター

プレゼンテーション終了後に招致都市の記者会見を実施した。

記者会見には、プレゼンターの竹田理事長、猪瀬都知事、水野専務理事、橋本理事、荒木田理事、太田選手に加えて、福井文部科学副大臣も登壇した。

記者会見では、プレゼンテーションで東京のキーメッセージを確実に伝えることができたことを報告した。質問は、情熱的だった東京のプレゼンテーション、アジアの中での日本のアピール、大陸ローテーション等に関するものがあった。

また、会見終了後に英語、仏語版のプレスキットを会場で配布した。

8 招致懇談会

日 時：平成 25（2013）年 5月 31 日 10:00～11:00

主 催 者：東京都知事

場 所：タレオン・インペリアルホテル
バカラボールルーム

2020 東京大会実現に向けた国際招致活動の実施において、多角的な観点から東京の開催都市としての魅力を PR するとともに、東京招致への協力を幅広く呼びかけるため、現地有力者・親日家・関係者等を招待して懇談会を開催した。会場には、100 名近くの地元財界人やスポーツ関係者、国内外のメディア関係者が詰めかけ、猪瀬都知事は「オリンピック・パラリンピックの開催地はもうすぐ決まるが、ぜひ東京の招致に協力してほしい。そして東京に遊びに来て、街を楽しんでいただきたい」と訴えた。

スポーツアコード日程

月 日	時 間	内 容
5月 27日	8:00	ブース設置準備 (レンエキスポエキシビションセンター)
5月 28日	8:30-18:00 18:00- 18:00-18:40 18:40-19:20 19:20-20:00	ブース展開 開会イベント イスタンブル技術チェック 東京技術チェック マドリード技術チェック (レンエキspoエキシビションセンター)
5月 29日	8:30-19:00 18:00-18:40 18:40-19:20 19:20-20:00	ブース展開 イスタンブル公式リハーサル 東京公式リハーサル マドリード公式リハーサル (レンエキspoエキシビションセンター)
5月 30日	8:30-18:30 13:10- 14:10- 14:50- 15:30-15:50 16:15-16:35 17:00-17:20 18:00-19:00 18:30-22:00	ブース展開 イスタンブルプレゼンテーション(20分) 東京プレゼンテーション(20分) マドリードプレゼンテーション(20分) イスタンブル記者会見(20分) 東京記者会見(20分) マドリード記者会見(20分) 閉会イベント ブース撤去 (レンエキspoエキシビションセンター)
5月 31日	10:00-11:00	招致懇談会* (タレオン・インペリアルホテル 「バカラ・ボールルーム」)

* * * スポーツアコード公式日程以外の催事

第3節 ANOC（国内オリンピック委員会連合）※総会

1 イベント概要

- ・期 間：平成 25（2013）年 6月 14 日から 16 日まで
- ・場 所：スイス連邦 ローザンヌ市
ボーリュー・カンファレンス・センター
- ・登壇者：竹田招致委員会理事長、水野専務理事、福井文部科学副大臣、田中理恵オリンピアン、荒井由希子招致委員会国際部ディレクター、

2 招致都市の活動

- プレゼンテーション
- 記者会見

3 プレゼンテーションの主な内容

ア 竹田招致委員会理事長（英語）

- ・私たちはアジアの代表であることを誇りに思っている。アジアは世界で最も大きな大陸であり、40 億人が住む大陸である。また、10 億人以上の若者が住まう最も若い大陸で、強い先進経済と急速に成長する市場の双方から恩恵を受けている大陸でもある。
- ・東京は確実な大会運営のみならず興奮と情熱をもたらす、人々の記憶に残る大会を開催する。

イ 水野招致委員会専務理事（英語）

- ・私たちの大会計画は 2016 年を出発点としており、IOC、アスリート、各國のオリンピック委員会の方々からの助言を基に計画を作成している。その結果、良い部分は維持し、できる部分は更に改善した。
- ・私たちの大会計画は、東京が持つ強い財政力を基盤としている。日本は世界第三位の経済大国であり、東京は世界最大の経済規模を有する都市である。この強い財政力によって、45 億ドルの大会開催準備基金の積立を可能にした。この基金は銀行に預金されている。新設の恒久施設やインフラ整備に必要な資金は全額準備されている。
- ・2020 年の東京大会では、参加各國のオリンピック委員会のために、次の点を保証する。
 - 選手団専用の輸送サービス
 - 選手村内に大会スタッフや打ち合わせ、医療ケアのために使用する充分な広さの事務スペース
 - 競技会場周辺、都市の中心部で提供される数多くのホテル客室
 - 魅力的な立地で NOC（各國オリンピック委員会）ハウスを運営するための多くのオプション

※ 国内オリンピック委員会連合（ANOC）：各國の NOC（国内オリンピック委員会）の連合体。
204（2013 年時点）の国と地域が加盟

ウ 荒井招致委員会国際部ディレクター（英語、仏語、西語）

- ・東京は、昨年、75,000人の旅行者に対して行われた調査により、世界で最も安心・安全な都市であると評価された。昼夜を問わず誰もが安心して街を歩くことができる。また、この調査で、東京は、公共交通機関、清潔な街路、友好的なタクシードライバーの項目でも1位に選ばれている。
- ・私たちは、都市のまさに中心で大会を開催することになる。オリンピックの競技会場のうちの85%、パラリンピックの競技会場のうちの95%が選手村から半径8km圏内に設置される。この素晴らしいコンパクトな計画は、世界トップクラスの優れた輸送システムによって支えられている。どの選手も、常に、時間通りに目的地へ到着することができ、10人中9人の選手が、選手村から20分で競技場に到着することができる。
- ・私たちの計画の素晴らしい点は、大会が都市と完全に調和し、文化と生活とスポーツがユニークな形で一体化されることである。ファントレイル、ライブサイト、チケット不要のイベントが競技会場とリンクし、特別な雰囲気が生み出される。

エ 福井文部科学副大臣（英語）

- ・招致に向けて政府の全面的な支援とオリンピック・ムーブメントへの責務を明確にしたい。
- ・政府のサポートの強さが明らかに示されているのが、新たなオリンピックスタジアムである。政府の出資により、2020年大会の選手や、その後の様々なスポーツ大会やイベントに素晴らしいステージを提供する。そのうちオリンピック博物館は、次世代にインスピレーションを与えていくものである。
- ・政府の責務はまた、法律にも盛り込まれている。スポーツ振興法は2011年に改正され、更なるスポーツ振興を推進するためのスポーツ基本法が成立了。日本国政府は、日本の教育課程において全ての生徒が体育を学び、スポーツに親しむことを保証する。また、学校教育の一部にオリンピックの価値やドーピングについて学習することを取り入れている。
- ・東京、そして日本全体が、アスリートや各国のオリンピック委員会、そして私たちに信頼を寄せててくれる方々のために卓越、友情、尊敬の精神をもって大会を開催する。

オ 田中オリンピアン（英語）

- ・オリンピアンになるという目標を達成できたのは、25歳の時で、体操選手としては、遅咲きであった。しかし体操一家に育ち、オリンピアンを家族に持つものとして、兄弟には絶対負けたくないと思い、決して諦めなかった。
- ・東京で選手村に到着したアスリートが体験することを想像してほしい。まず最初に、選手村が三方を海に囲まれた素晴らしい立地にあることに気づくだろう。そして、徒歩圏内に銀座があることも。銀座は、昨年、日本選手団の歓迎パレードが実施され、平日にも関わらず、50万人の人々がアスリートを歓迎してくれた場所である。
- ・2020年に起こるであろう情熱を想像してほしい。満員の会場で、アスリートは更に輝きを増すことを約束する。
- ・東京は都市のイメージそのものの大会を開催することになるだろう。ダイナミックでありつつ安全で、興奮に満ちていながら信頼がおけて、インスピレーションを与えるものである。

カ 竹田招致委員会理事長（英語）

- ・過去2年間、日本では、アスリートやスポーツが社会においていかに重要な役割を果たしているかを目の当たりにしてきた。東洋と西洋という世界の2つの文化を橋渡しし、かつ結びつけ、五大陸全てとつながっている都市で、私たちはアスリートを再び舞台の中心に導きたい。
- ・2012年のロンドン大会のセブ・コー委員長は、どの立候補都市も2つの単純な質問に答えなくてはならないと述べた。それは、「なぜ大会を開催するべきなのか」と「どのように大会を開催するか」である。
- ・私たちの'Why'＝私たちのビジョンは明確である。次の世代へオリンピックの価値を広める最高の大会を開催し、Delivery, Celebration, Innovationという3つの強みによりオリンピックファミリー全体に貢献することである。

Delivery

安心・安全・確実な大会

Celebration

都市の中心で行われる、これまでにない祝典

Innovation

先進都市の想像力・創造力で、世界のスポーツ界にもたらす革新

- ・私たちの'How'、どのように大会を開催するか、も非常に明確で重要なポイントである。'How'と'Why'を分けて考えることはできない。
- ・現代のような不確実な時代にあっても、確実性を提供できる。私たちはオリンピック・パラリンピックムーブメントに貢献し、グローバルスポーツファミリー、そして永続するグローバルなスポーツの力を信じるすべての人々に恩恵をもたらすため確実な大会を開催することを約束する。

3 成果

- ・キーメッセージである“万全な大会開催能力”はうまく浸透させることができた。
- ・NOCチャーター（NOCに提供できるTokyo2020のサービスをまとめたもの）を作成。
- ・英語、仏語、西語の3言語でプレゼンテーションを行い、東京の国際的な側面をアピールすることができた。
- ・スポーツアコードに引き続き、東京の流れを維持。



4 記者会見

ANOC 総会では、IOC から記者会見の機会が付与されなかったため、オリンピックメディアや国内外の報道関係者に対し、2 件のラウンドテーブルを実施した。また、ラウンドテーブルのほか、ANOC 総会期間中に 3 件の個別取材も実施した。

ラウンドテーブル出席者：竹田招致委員会理事長、水野専務理事、福井文部科学副大臣、田中オリンピアン

個別取材：AFP・Eurosport（竹田招致委員会理事長）、Inside the Games（福井文部科学副大臣）

ANOC総会日程

月 日	時 間	内 容
6月14日	14:00-15:00 15:00-16:00 16:00-17:00 20:00-	イスタンブル技術チェック 東京技術チェック マドリード技術チェック (ボーリュー・カンファレンス・センター) ローザンヌ市主催のレセプション (ローザンヌパレス)
6月15日	14:30-14:50 15:00-15:20 15:30-15:50 19:30-	イスタンブルプレゼンテーション(20分) 東京プレゼンテーション(20分) マドリードプレゼンテーション(20分) (ボーリュー・カンファレンス・センター) IOC主催のレセプション (IOC本部)
6月16日	11:30-13:30	ガーデンレセプション (ANOC本部)

第4節 世界水泳選手権バルセロナ大会

1 大会概要

期 間：平成 25（2013）年 7月 19 日から 8月 4 日まで

場 所：スペイン バルセロナ市

参 加 者：竹田招致委員会理事長、水野招致委員会専務理事、荒木田招致委員会スポーツディレクター、松永東京都スポーツ振興局招致推進部長、福井文部科学副大臣、鈴木招致委員会理事（日本水泳連盟会長）、招致議連役員等 他

2 ブース展開概要

期 間：平成 25（2013）年 7月 19 日から 8月 4 日まで

場 所：スペイン バルセロナ市

来場者数：約 5000 人

展 示 物：ズーミング（画像）・夢の島プリシンクトの模型（オリンピックアクアティクスセンター等）や壁面マップによる競技会場等紹介、65 インチモニターによる招致 PR 映像放映及び競技中継、漫画カメラ等

配 布 物：Why & How パンフレット、Discover Tomorrow、立候補ファイル概要版、Tokyo Colors、The Future in Tokyo、東京都スポーツ振興計画、ピンバッジ、うちわ、ポストカード、紙袋等

3 成果

ズーミング、夢の島プリシンクトの模型（オリンピックアクアティクスセンター等）や壁面マップを活用し、競技開催計画を説明した。また、招致 PR 映像や会場紹介映像により、来場者に東京や日本を PR した。

漫画カメラが好評で、来場者に東京招致を印象づけ、Cool Japan、漫画や日本の技術をアピールすることができた。

また、バルーンスティックを配布し、競技会場の応援に利用してもらい、そのシーンがメディアで取り上げられた。

ブース展示については、複数のメディアに取り上げられ、東京の招致への取組、開催計画等についてアピールすることができた。ブースにおいて、日本の水泳選手に対し囲み取材を実施するなど効果的に東京招致をアピールすることができた。

ブースには、IOC 委員や世界水泳連盟関係者も訪問し、東京の計画の優位性を訴えることができた。

また、様々な会談や競技会場等でも IOC 委員に東京支持を訴えた。



ブースの様子

第5節 IAAF世界陸上選手権モスクワ大会

1 大会概要

- ・期 間：平成 25（2013）年 8月 10 日から 8月 18 日まで
- ・場 所：ロシア連邦共和国 モスクワ市 ルジニキ・スタジアム

2 海外広報活動

大会開催前日の平成 25（2013）年 8月 8日、招致委員会はモスクワ市内ホテルで記者会見を開催した。メディア約 40 名が出席し、竹田理事長と、JOC の高橋尚子理事が記者会見に臨み、東京招致の PR を行った。東京都からは細井東京都スポーツ振興局長が参加して、東京招致の PR を行った。

3 プロモーション活動

世界陸上モスクワ大会開催時に合わせ、モスクワ市に於いて IOC 理事会、IAAF（国際陸上競技連盟）理事会・総会が行われた。2020 大会開催都市が決定される 9 月の IOC 総会前、IOC 委員が多く参加する最後のイベントであり、招致委員会の竹田理事長、水野専務理事らが IOC 委員との個別会談などの国際プロモーション活動を展開した。

